

平成23年度教育事業
つながる！はじまる！ボランティア体験講座

ボランティア活動や自然体験活動に必要な基礎的知識・技術を学ぶことができ、ボランティアについて深く考える機会ができました。また、普段経験することのない体験を通して参加者同士のネットワークも広がり、幅広い視野を身に付けることができました。

1 事業実施までの経緯

青少年にボランティア精神を普及し、生涯を通じて様々な場面でボランティアとして活躍できる人材を育成する重要性は従来から指摘されている。本事業では、当機構の法人ボランティア制度に基づき、ボランティア自身が事業の企画、運営計画を立て、実施することによって、事業を運営するために必要な知識と技能を体験から学ぶことをねらいとし、主体的に行動できる人材育成につながるよう企画した。また、地域のリーダーとして活躍できる人材を育成する上で、主に地域で活躍する高校生を中心に実施することとした。なお、事業後に法人ボランティアとして登録した者には年間を通じて当事業で企画したイベントを実施し、活動報告の機会を設けることで、企画体験、そして、ふりかえりを実体験できるように計画した。

2 ねらい

青少年教育におけるボランティア活動や自然体験活動に必要な基礎的知識・技術等を習得するための研修を行い、生涯を通じて地域や様々な場面において主体的に行動できる態度を育成する。

3 主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家

4 後援 愛媛県教育委員会・大洲市教育委員会

5 期日 つながる！はじまる！ボランティア体験講座 Vol. 1
平成23年6月11日（土）～12日（日）【1泊2日】

つながる！はじまる！ボランティア体験講座 Vol. 2
平成23年7月23日（土）～24日（日）【1泊2日】

事業後の企画体験および実施報告

青少年交流の家フェスティバル 平成23年10月21日（土）

青少年体験活動フォーラム in 室戸 平成24年1月14日（土）～15日（日）

6 場所 国立大洲青少年交流の家

7 参加人数 つながる！はじまる！ボランティア体験講座 Vol. 1 31名
つながる！はじまる！ボランティア体験講座 Vol. 2 23名

8 講師 つながる！はじまる！ボランティア体験講座 Vol. 1
高岡 慶子 氏（国立大洲青少年交流の家 法人ボランティア）

つながる！はじまる！ボランティア体験講座 Vol. 2
 米田 真介 氏（ティアーズスイッチ事業組合代表）

つながる！はじまる！ボランティア体験講座 Vol. 1 および Vol. 2
 国立大洲青少年交流の家企画指導専門職・事業推進係・法人ボランティア

9 日程・内容

つながる！はじまる！ボランティア体験講座 Vol. 1

(1) 日程

□ 6月11日（土）

10:00	11:00	11:30	12:00	13:00	14:00	15:30	16:30	19:00	20:30	22:00
受付	開講式 オリエン テーション	交流の家 ボランティア 紹介	昼 食	アイス ブレイク	ボランティア 体験講座 講師：高岡慶子氏	ボランティア 体験報告 I	つどい 夕食	ボランティア 体験報告 II ふりかえり	自由 交流	入浴 就寝

□ 6月12日（日）

6:30	9:00	13:00	15:00	15:30
起 つどい 床 朝食	企画体験 (野外炊飯体験・ダッチヨークーヘン作り) (安全管理)	分かち合い	閉講式	解 散



(2) 活動内容

【概要】

国立大洲青少年交流の家では、高校生・大学生・専門学校生・社会人等の青年を対象にボランティア養成事業を行っている。今年度も「つながる！はじまる！ボランティア体験講座」を独立行政法人国立青少年教育振興機構における法人ボランティア養成共通カリキュラムに基づく内容で実施した。

開講式の後、参加者同士の緊張をほぐし交流できるようにとアイスブレイクを行った。その後、高校生による学校で取り組んでいる生徒会活動やボランティア活動を発表し合い、お互いの情報交換やボランティア観、活動における意義について理解を深めていった。二日目には、ボランティアについての企画体験と題し、バウムクーヘン作りの企画を題材に、企画の過程を通しながら実際に体験をしていった。

ア 交流の家ボランティア紹介

講師：企画指導専門職・事業推進係・法人ボランティア

交流の家の設立目的や取り組んでいる事業等、プロジェクトを通して説明し、参加者に当交流の家について理解を深めてもらった。当交流の家が集団宿泊以外に取り組んでいる活動を初めて知った者も多く、驚きの声が上がっていた。また昨年までの事業の様子を法人ボランティアとして活躍しているボランティアから体験談として話をしてもらい、参加者へより具体的に活動の様子をイメージしてもらうことができた。

イ アイスブレイク

講師：企画指導専門職・事業推進係・法人ボランティア

当交流の家職員によるアイスブレイクを行い、簡単なレクリエーションを通して参加者の緊張をほぐしていった。また、アイスブレイクの意味や目的などを具体的に説明し、参加者が実際に指導者の立場として取り組めるように指導者の視点を交えて講義を行った。参加者は熱心に取り組んでくれており全体的に終始和やかな雰囲気でも過ごすことができていた。



ウ ボランティア体験講座

講師：高岡 慶子氏

高校生が中心の参加者へ向けて、参加者の保護者と同じ世代である立場を通じて青少年に期待するボランティアへの思いを話していただいた。また、ボランティア活動をする上で周りに対する理解が必要になってくることを先輩ボランティアとしてアドバイスをしていただいた。その後、高岡氏がボランティアをはじめたきっかけである紙芝居の読み聞かせボランティアを参加者に体験してもらい、ボランティアを受ける側とする側の気持ちを感じてもらった。様々な人の立場になってボランティアについて考えることでボランティア活動をする上での環境を理解することができた。



エ ボランティア体験報告Ⅰ・ボランティア体験報告Ⅱ

発表者：大洲農業高等学校・三崎高等学校・川之石高等学校・三島高等学校

各学校で取り組んでいる生徒会活動やボランティア活動について発表をしていただいた。各学校の特色ある取組に参加者は熱心に聞き入っていた。発表後の感想では「自分たちの学校で取り入れられるところは積極的に取り入れたい」と話すなど活動内容にとっても興味・関心をもったようであった。また、各学校同士のネットワークもつなげることができ、発表者や参加者にとっても有意義な時間になったようであった。



オ ふりかえり

一日を通して、参加者に今日の活動をふりかえってもらった。実際に「ふりかえり」を行うことで何が得られるのか、なぜふりかえることが必要なのかを考えてもらい、「ふりかえり」に対する思いの共有や必要性について考えてもらった。

参加者からは、実践し体験したことを簡単な印象や出来事として留めずにしっかり自身の行動に良い部分、悪い部分を見つけていくことで今後の行動の改善点へとつなげていくことができたようであった。

カ 企画体験（野外炊飯体験）（ダッチョークーヘン作りと焼きそば作り）

はじめにダッチョークーヘンが企画された経緯を伝え、企画作りに必要な動機(思い)について考えてもらった。また、安全管理の講義を行い、野外で活動する際の危機管理、危険予測などの理解を深めてもらった後、ダッチョークーヘン作りを実際に体験していった。

バウムクーヘン作りでは、ダチョウの卵を使うグループと鶏卵を使うグループとに分かれ、ダチョウと鶏卵の違いを見つけないながらバウムクーヘン作りに取り組んだ。あいにくの雨となり湿気によって火付け作業がうまくいかない場面が度々見受けられたが、当初予定していた時間を過ぎても全グループの参加者からなんとかして最後まで作り上げたいとの声があがり、当所予定していた時間を急遽延長して行っていた。

どの班も見事に作り終えることができ、最後はでき上がったバウムクーヘンの試食をしてグループで協力した完成品の味を確かめていた。

最後まで企画をやり通したことで、グループの中で達成感や感動を分かち合う姿が見られ、それぞれのグループで深いつながりができていた。また企画作りの楽しさを十分に理解してもらうことができた。



キ 分かち合い

バウムクーヘン作りを延長したことで、お互いの思いや気づきを全体で共有し合う時間はとれなかったが、グループそれぞれが企画体験を通して達成感を共有できたことで、参加者同士の相互理

解やネットワークが自然とできていた。またこの二日間を通して、グループ内にとどまらず全体へと参加者のコミュニケーションがつながっていたことが印象的であった。

また参加者からも、今後、交流の家で活動したいという声が多く聞かれ、ボランティアに対する興味関心がこの二日間を通して深まっていったようであった。

(3) 参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

*満足：94.7% *やや満足：5.3% *やや不満：0.0% *不満：0.0%

- 楽しかったです。
- みんなと仲良くできて良かった。
- とても良かった。
- とてもいい経験になって良かった。
- いろいろ参考になった。



(4) 成果・課題

当事業においては今年で5回目の開催である。今回の事業実施にあたり、まず各学校へ高校生の実態調査を行った。そこでは、高校生の生活環境の変化、また求められている役割、学校でのカリキュラム等、高校生を取り巻く環境が以前にも増して多様化していることがわかり、事業の実施時期によっては全く事業に参加できないことがわかった。そのため、事業実施の時期検討については、各高等学校の行事日程などをしっかり把握した上で、参加者が参加しやすいように2回に分けて事業内容を構成した。2回に分けて実施したことで比較的参加しやすい環境になり、例年に比べて高校生の参加者が多く集まった。

また、今回の事業内容においては、高校生による学校での生徒会活動やボランティア活動における取組を事例発表として行った。参加者や発表者の高校生の中には他校の取組を知る機会が少なく非常に参考になったようであった。さらに当事業をきっかけに各学校とのつながりができ、学校同士でのネットワーク作りも進めることができた。

今回は高校生中心の参加者が集まり事業を実施してきたが、参加者の要望事項に参加者同士のコミュニケーションを重視したいとする傾向があり、講義を中心とするよりもお互いに何かを協力して行う体験的な活動を織り交ぜた内容にする方が興味・関心をもって取り組みやすいことがわかった。

また、近年の高校生や大学生を中心とする就職や進学において、コミュニケーション力や人間性を重視し、評価する傾向が続いており、高等学校でもボランティア活動や課外活動につながる事業のニーズは非常に高い。その反面、主体者である高校生の参加については、自らが進んで事業に参加する者は非常に少なく、高等学校教員のフォローやサポートとなるきっかけづくりがなければ参加することが難しいと分かった。

今後の事業については、学校や生徒の現状や実態を考慮し、ボランティア活動などの体験的な活動機会をできるだけ提供することが大切である。



つながる！はじまる！ボランティア体験講座 Vol. 2

(1) 日 程

□ 7月23日（土）

10:00	11:00	11:30	12:30	13:30	16:30	18:45	20:30	22:00
受付	開講式 オリエン テーション	交流の家 ボランティア紹介 アイスブレイク	昼 食	ボランティア体験講座 (企画の作り方を学ぶ) 講師：米田 真介氏	つ ど い ・ 夕 食	グループワークⅠ (役割作り)	入 浴 自 由 交 流	就 寝

□ 7月24日（日）

6:30	9:00	12:00	13:00	15:00	15:30
起 つ ど い 朝 食	グループワークⅡ (企画作り・危険予測について)	昼 食	企画発表 分かち合い	閉講式	解 散



(2) 活動内容

【概要】

「つながる！はじまる！ボランティア体験講座Vol. 2」として、前回の「つながる！はじまる！ボランティア体験講座Vol. 1」に引き続いた形で講座を行った。

開講式の後、参加者同士の緊張をほぐし交流できるようにとアイスブレイクを行い、その後、講師によるイベント企画の手法やコミュニケーションの重要性について学び、理解を深めていった。今回は「つながる！はじまる！ボランティア体験講座Vol. 1」の企画体験から続いて、青少年交流の家フェスティバルに向けたイベントの企画作りをグループ中心に考えていった。また、グループでイベント企画を考えていくにあたり、グループでの役割作りやコミュニケーションを高め合えるようにグループワークゲームを実施し、最終的にイベント企画作りから企画発表を通してお互いの価値観を分かち合い、今後のイベント企画実施に向けてボランティアの意識を高めていった。

ア 交流の家ボランティア紹介

講師：企画指導専門職・事業推進係・法人ボランティア

交流の家の設立目的や当事業の目的、取り組んでいる事業等、プロジェクターを通して説明し参加者に当交流の家について理解を深めてもらった。またボランティアの定義や実際にボランティア活動を行うにあたっての留意点を説明し、ボランティアについての基礎知識を深めてもらった。



イ アイスブレイク

講師：企画指導専門職・事業推進係・法人ボランティア

当交流の家によるアイスブレイクを行い、「導入、展開、まとめ」という流れを作り、簡単なレクリエーションを通して参加者の緊張した雰囲気をほぐしていった。レクリエーションを行う際に参加者が実際に指導者の立場として取組めるように、指導者視点の指導法も交えながら行った。参加者は熱心に取り組んでくれており、全体的に終始和やかな雰囲気で過ごすことができた。

ウ ボランティア体験講座

講師：米田 真介氏

米田氏によるボランティア活動に対する思いを参加者に伝えていただいた。米田氏が行っている撮影ボランティアの体験談を中心にボランティアの奥深さや他人と接する時に大切にしたいところ、ボランティアから「思い」を「形」にするために起業をした経緯などを話していただいた。高校生、大学生の参加者にとって、とても興味深いものだったようで質問の時間では多くの質問が飛び交っていた。また撮影ボランティアで培った経験を活かした撮影手法やカメラの性能や機能を

活かした撮影方法も実際に体験しながら教えていただき、撮影ボランティアの撮影スキルなども学べ、満足した様子であった。

エ グループワークⅠ（役割作り）

翌日のイベント企画に向けたグループで集まり、イベント企画に必要な役割を考えてもらうためのグループワークゲームを行った。様々なイニシアチブゲームなどのグループワークゲームを通してグループの仲を深め合うことができた。また、ゲームを通してグループにおける役割分担を話し合ったことで、グループ内にまとまりができていた。一日目は講義中心であったこともあり、体を動かす時間を取り入れたことで、参加者にとっても新鮮な気持ちで取り組める内容になっていた。



オ グループワークⅡ（企画作り）

10月に行う青少年交流の家フェスティバルに向けて4つのグループに分かれて企画作りを行った。

はじめに企画作りの心構えや企画実施後のふりかえりについて説明をした後、企画作りの手法としてブレインストーミングやKJ法などを学んだ。その後、各グループに分かれて企画作りを行い、模造紙に内容をまとめていった。青少年交流の家フェスティバルのイベントのイメージがなかなか浮かびにくいグループもあり、企画作りに難航しているところもあったが、グループで出た意見をお互いにフォローし合いながら完成させることができていた。

カ 企画発表

模造紙にまとめた企画案をそれぞれ順番に発表していった。一人一人が発表者となり発表を行うグループや代表者を決めて発表するグループなど、グループによって相手に伝わりやすいように工夫を凝らした発表をしていた。

短時間で企画作りと発表をすることもあり、企画の素案部分を中心に発表を行った。どのグループも青少年交流の家フェスティバルをイメージした、来所者に喜ばれる企画が作り上げられていた。



キ 分かち合い

2日間を通して感じたことをまとめ、参加者全員でそれぞれの思いをふりかえった。

事業を通して「ボランティアに対する理解・知識が深まった」、「普段話さない高校生、大学生との仲が深まった」、「コミュニケーションの大切さが分かった」、「自分自身を見つめ直していきたい」の言葉がそれぞれの参加者から発せられていた。今回の事業を通して、自己の行動に対するふりかえりが多くあげられていた。また、「進んで行動したい」などの前向きな意見も多く、参加者の今後の活躍が楽しみな時間となった。



(3) 参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

*満足：95.2% *やや満足：4.8% *やや不満：0.0% *不満：0.0%

- とても良い講座に参加できたと思います。ありがとうございました。
- とても楽しく過ごすことができた1泊2日でした。また一期一会となる日を心より楽しみにしています。
- 米田さんの話、感動しました。企画実現のために準備がんばっていきたいです。

(4) 成果・課題

当事業は6月に引き続き2回目の事業開催であった。

1回目は企画体験として、イベント企画のための体験を行い、2回目は実際に自分たちで企画作りを行う内容で実施した。継続して参加した者については、当交流の家の施設の特徴でもある「つどい」の司会進行を体験するなど、実際に当交流の家の法人ボランティアの活動に近い形を事業の中で取り入れた。

今回は大学の講義の一環として社会教育分野に関心のある学生の参加があり、大学生のボランティアに対するニーズが高まってきていることが分かった。このことから、広く一般にボランティアの理解を深め、様々な場面で活躍するきっかけを提供することは非常に重要なことだと感じている。また、高校生の参加者については学校行事等により直前に6名のキャンセルがあった。そのような高校生の実態を踏まえ参加者との連絡体制を整えておく必要がある。

当事業は青少年交流の家フェスティバルに向けた企画を目的に、企画作りから実施、ふりかえりへとつながるような内容とした。しかし、青少年交流の家フェスティバルに参加できる者が少なく一素案として提案するまでにしかなかった。

今後は、参加者の実態に合わせた日程調整等を行い、自分たちで企画したものを形として実施することで体験できるボランティアへの「やりがい」をぜひとも感じてもらいたい。



青少年交流の家フェスティバル

(1) 準備

「つながる!はじまる!ボランティア体験講座」Vol. 1・Vol. 2に参加し、法人ボランティアとして登録した者が中心となり、提案された企画をもとに実施した。

青少年交流の家フェスティバルの企画・実施にあたり、月に2回程度の集まりを設けて準備を行ってきたが、初めての経験であったこともあり、イベント実施に向けて様々な苦労が見られた。特に高校生を中心としたボランティアによる打合せは、学校行事等が重なり、メンバーが毎回入れ替わったこともあり、継続して取り組むことが難しかった。そのため、実際の形になるまでに多くの時間と準備を要した。



(2) ボランティアの声

- 初めて参加したフェスティバルでしたが、多くの方に来ていただき、こんなに多くの人があるのなのだと分かりました。
- 今回の青少年交流の家フェスティバルのボランティアは、最初から最後の片付けまで一生懸命頑張りました。

(3) 成果・課題

ボランティア企画の実施にあたっては、今年度「つながる!はじまる!ボランティア体験講座」に参加し、法人ボランティアとして登録した高校生が中心となって活動をしてきた。当日のイメージをシミュレーションしながら組み立ててきたが、実際に問題点を整理していく上で、対応できない点が出てくるなど、企画を実施するまでに多くの時間を費やしながら準備をしてきた。当日は、来所者と接する中で、実際の



流れや変化に対応するなど、イベント企画の良さや難しさを体験することができた。

実施後のふりかえりの中では、企画作りの大変さや魅力に気付いた者もあり、人と接していく上で、相手の立場になって考えることを意識したふりかえりができていた。

参加者は、ボランティア企画の体験を通して、様々な場面で主体的に活動できる態度を身に付けることができた。今後の法人ボランティアとしての活躍を期待したい。

青少年体験活動フォーラム in 室戸

(1) 経緯

体験活動による教育効果が期待されている中で、平成21年度より全国6ブロック（北海道、東北、関東周辺、中部・北陸、近畿・四国、中国、九州・沖縄）で、青少年の体験活動の関係者が一同に会し、青少年の体験活動に関する事例研修や情報交換等を行い、今後の青少年の体験活動の充実を図る事業が行われている。

今回、近畿・四国ブロックで行われた「青少年体験活動フォーラム in 室戸」にて、体験活動報告の事例発表の機会を得た。そこで今年度、新規に当交流の家の法人ボランティアとして登録し活動している高校生が自分たちのボランティア活動について発表をすることとなった。

発表において、高校生が中心となって活動している当交流の家ボランティアと他施設のボランティアとは雰囲気も異なり、発表後の意見交換の時間では、お互いに刺激のある時間となっていた。また、ボランティア活動者としての思いやボランティア受入れ側施設としての思いを共有することもでき、実りある時間となった。

(2) ボランティアの声

- 発表では緊張しすぎて、早口になってしまっていて聞き取りづらかったらと思います。あんなに緊張するとは思いませんでした。みんなで頑張ってきた発表の質を下げってしまったと思うと悲しいですが、失敗を無駄にしないように次につなげていきたいと思っています。
- 来年も行きたいです。

(3) 成果・課題

県外で開催されたフォーラムでの発表は、月に2回程度の集まりを行うなど、準備や時間が必要になったが、今年度のボランティア活動の思いをふりかえる時間として活用することができた。また、普段活動している場所から離れ、同じような活動をしている他施設のボランティア活動を見学することで、自身の活動と比較することもでき、客観的にボランティア活動を理解することにもつながっていった。ボランティアは、自発性、無償性、公共性の特徴的な性格があるが、人と人とのつながり、ネットワークを築く場所としても大いに活用できる。今回の県外での活動は、ボランティア活動をする者の意欲や意識を高めるだけでなく、人との関わりを広げることのできる貴重な機会となっている。ぜひ今後も県外で活動できる機会を提供していきたい。

課題としては、時期的に大学入試センター試験と重なってしまうなど、高校生にとっては参加が難しい状況になっているため、県外で活躍できる機会を別に増やすなど、法人ボランティアにとって実りある機会を提供したい。

